

【KOOSAIHO（コーサイホー）で使用する道具】



【必需品】

- ①、道具箱。
- ②、クレヨン（オイルパステル＝オイルクレヨン）
- ③、ペトロール（溶き油）
- ④、ペーパーヤスリ（空研ぎ用の紙やすり。240 番）
- ⑤、綿布（肌着、Tシャツなどを、約20～30センチにカット）
- ⑥、スケッチブック（ハードカバーの水彩画用紙・中目）
- ⑦、腰かけ椅子（アルミ製の二人掛け用）※道具を横に置いて座れます。
- ⑧、膝当て用のバスタオルなど。（汚れてもいいもの）と、日よけ帽子など。

【あると便利な道具】

- ⑨、屋外用イーゼル。

続けてゆきたい方には特にお勧めです。

画材店で7000~8000円程度の、木製（軽いアルミ製でも可）のイーゼルをお勧めします。

（様々な種類がありますので、なるべくシンプルで取り扱いやすいものを選びください）

※注、屋外スケッチで、画面に日光を当てたまま描いてゆくと、部屋の中で見たとき、とんでもなく暗い絵になってしまいます。

イーゼルは、先ず、天地の感覚を得るために必要な道具。であると同時に、直接日光を画面に当てないために必要な道具でもあります。

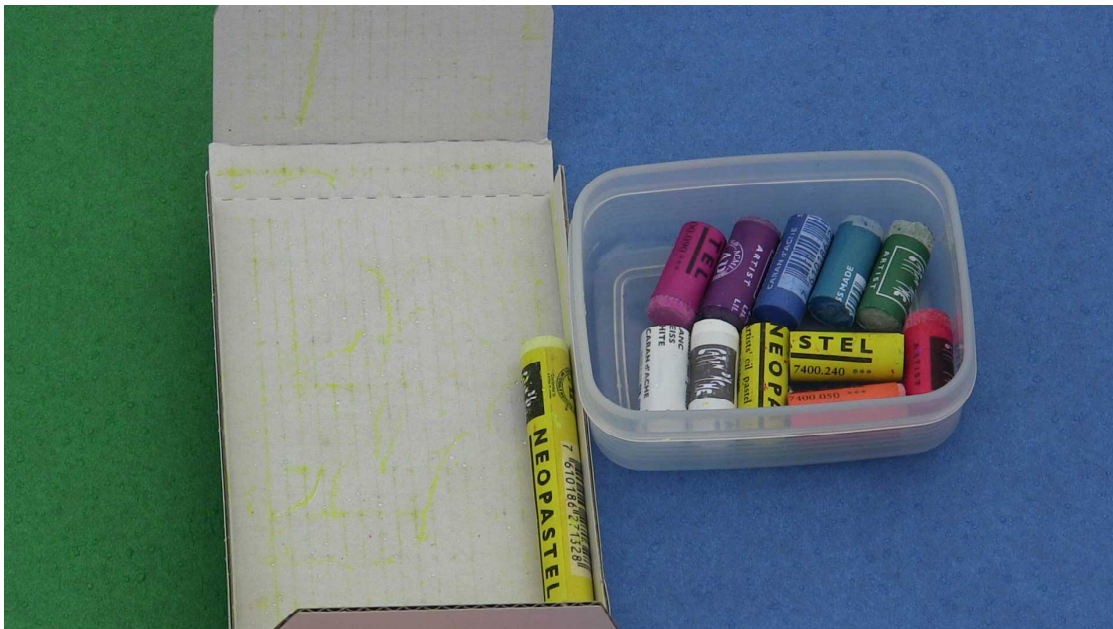
順に説明。

①の道具箱は、ホームセンターなどにある道具入れ。

区切りが9カ所くらいあるもので、ペトロールや紙やすりや一回分の布など入れることも考えて、持ち運びしやすいものを選びます。

②のクレヨン（オイルパステル）は、油性の、触って指に付くもの。（わたしの使っているオイルクレヨンは、スイス、カランダッシュ社製の「ネオパステル」です。

【クレヨン】



ご参考までに、色番号。

001（白）、050（オレンジ）、090（赤紫）、110（紫）、140（群青）、160（青）、200（緑）、240（黄）、280（赤） 以上の9色です。

以上は、わたしが選んだ色です。

手に持って扱いやすい大きさ（三分の一）にカットしています。描くときに巻紙を取り除いて使用します。（巻紙を取ったクレヨンは、しばらく使わ

ないでいると周囲に膜ができますので、使用する際に布で拭い取ります。)

※注1、指に付かないクーピータイプのクレヨンはこの描き方には向きません。

※ここで黒について。

現在、KOOSAIHOでは、例外を除き、黒の使用を勧めていません。

それは黒が、透明に輝く光と同様、物質的なクレヨンの色では現せない色であると考えからです。自然界に見る黒は、赤と青と黄色の関係がどこまでも強く結びついた色であると考えております。

(もし、この三色の重なりでは現わせない！ と、感じて黒を画面に乗せたところから、深い色の観察が困難になります。)

③のペトロールは、クレヨンを溶かす揮発性の油。画材店や品数豊富な文房具店でも手に入ると思います。

※注2、必ず取り扱い説明を見てください。

【警告】には、

- ・石油系溶剤。
- ・可燃性。火気の付近で使用しない。
- ・蒸気を吸い続けると有害です。
- ・換気をよくして使用のこと。
- ・皮膚に付けたままにしないこと。
- ・飲み込んだときは医師の処置を受けること。
- ・子供の手の届かないところに保管すること。……とあります。

④のペーパーヤスリは、ホームセンターなどにあります。空研ぎ用・240番あたりが適しています。それを、16等分にカットして遣っています。

⑤の綿布は、着古した肌着やTシャツなどの吸収性の良い、伸縮性のある布が適しています。ホームセンターなどにウエスとして売ってある物でも良いのですが、その場合は白色の、上質な生地を選んでください。

⑥のスケッチブックは、水彩画用のハードカバーのスケッチブックが適しています。

中目のものが扱いやすいと思います。（わたしは、紙質の柔らかいものを使用しています）

⑦～⑨は、あれば便利なもので、続けてゆきたい方にお勧めします。

（⑧の膝当てについては、初回からあった方がいいかもしれません）

《描き方ビデオのご紹介》

ここでご紹介した内容に沿ったスケッチビデオを、ユーチューブにて配信しております。

「スケッチに行こう」と、検索すれば出てくる筈です。

（パソコンでご覧になる場合は、設定から、HD画像を選択して頂くと良いと思います）

「スケッチに行こう」で出ないときは、「画家瀬崎」で検索すると、わたしのホームページがありますので、そちらの「スケッチ」のコーナーからご覧頂けます。